

## 2 逃亡者たち

### I

水が勢いよく流れ  
白き<sup>ひょう</sup>雹が打ちつけ  
稲妻が光り  
白き水しぶきが舞い踊っている  
逃げろ！ 5

風が渦巻き  
雷鳴が轟き  
森は揺れ  
教会の鐘が鳴り響いている  
離れろ！ 10

大地は大海のよう  
残骸をまき散らし 荒れ狂っている  
鳥も獣も 人も虫も  
嵐から這い出している  
離れろ！ 15

### II

「我々の船の帆は一つ  
舵取りは青ざめた顔  
勇敢な舵取りではあるが  
今は我々に従うべきだ」  
男は叫んだ 20

女が大声で「<sup>うまろ</sup>上手く櫓を漕いで！  
元気に船出しましょう！」  
そう叫ぶ間にも 激しい稲妻と<sup>ひょう</sup>雹が  
彼らの行く手に 叩きつけた  
海一面に 25

島 塔 岩から  
青いのろしが次々と上がり  
突風の中 音はなかったが  
大砲が間髪いれず 赤い火を吹いた  
風下から 30

### III

「怖いのか?」「怖いのか?」  
「見えるのか?」「聞こえる?」  
「我々は この荒海を  
突き進もうじゃないか  
私と君で」 35

大きな軍人マントが  
恋人たちを覆った  
二人の血はどくどくと音をたて脈打ち  
誇り高き希望を呟く  
そっと 低い声で 40

波荒れ狂う大海は  
動く山のごとく  
下へ 上へ  
沈んで 砕け 向きを変えた  
あちらへ こちらへ 45

### IV

要塞の中  
青ざめた女門番の傍に  
鞭でしたたか打たれた獵犬のように  
花婿が立っている  
恥辱に蝕まれて 50

一番上の監視塔で  
死神のように  
白髪の暴君なる父親が立っている  
大あらしも彼の声に比べれば  
大人しいもの 55

かつて子供に浴びせかけられた  
激しい罵詈雑言で  
我が名を引き継ぐ 最良の  
最愛の そして最後の我が子への怒りを  
爆発させる 60

(伊藤真紀訳)